巻頭特集

口コミで広がり続ける感動の輪

絵本「だいじょうぶ だいじょうぶ みんな だいすきだから」に込められたメッセージ

池田町八幡に、誰もが安心して利用できる店づくりにこだわったブルースカフェがあります。青い扉の先にある店内には、一冊の絵本が。

「だいじょうぶ だいじょうぶ みんな だいすきだから」と書かれた絵本を捲ると、手をつないで笑顔を浮かべるキャラクターたちの姿がありました。

九死に一生を得て生きる意味を探す

「いっしょにあそびにいこうよ！」

物語は交通事故で片足を失った男の子が、遊びに誘われるところから始まります。男の子は障がいを理由に断るものの、相手の言葉に考えを変えます。

「だいじょうぶだいじょうぶ ぼくのあしがあるから」

片足の男の子はこの言葉に安心し、今度は声をかけてくれた男の子と一緒に、耳の不自由な女の子を誘います。女の子は聞こえないことを理由に遠慮しようとしますが、片足の男の子はこう言葉をかけます。

「だいじょうぶだいじょうぶ ぼくあしがないけど でも おはなしできるから」

自分のできることを生かして助け合う「だいじょうぶ」の輪は、こうして物語が進むごとに少しずつ広がっていきます。

生きるうえでの大切なメッセージが込められた絵本、「だいじょうぶだいじょうぶ みんな だいすきだから」。池田町の後藤政幸さんが文章を、友人の加藤優一さんは絵を担当しました。

きっかけは2002年、後藤さんがガードレールとの接触事故を起こしたことに始まります。手術は16時間以上に及び、一命は取り留めたものの、患部の壊死が止まらず、左大腿部の切断は避けられませんでした。3年前には、取り返しのつかない大きな事故を起こして加害者になった経験もあり、「なぜ自分は生きているのだろう」という問いが頭を離れなかったといいます。

生きる意味を見出すために、障がい者スポーツ（競泳）に挑戦。全国大会で金メダルに輝くなど試合で結果を残すうち、選手として評価される立場ではなく、誰かの役に立ちたいと考えるようになりました。「障がい者を見て、かわいそうだと思う人がほとんどだと思います。ただ、そう思われたくない障がい者もいて、僕はそちら側だった」と後藤さんは振り返ります。

08年に絵本を手づくり 口コミで9000部を販売

「健常者と障がい者の間に、垣根はない」。後藤さんは、客として利用していたブルースカフェオーナーの加藤さんと同じ考え方で意気投合し、絵本づくりを決意。後藤さんは通勤途中に文章を考え、加藤さんはパソコンを使って絵を制作しました。製本作業もすべて手作業で、家庭用のプリンターでA4用紙に印刷し、半分に折ってホチキスで止めるという地道な作業で完成させました。

2人とも未経験の挑戦ではありましたが、完成までかかった時間はわずか5カ月ほど。わかりやすい文章と、素朴なイラストの手づくり絵本は口コミで少しずつ広がりを見せ、約9000部を販売しました。

初版から見比べると、英訳をつけたり、絵本のテーマ曲が入ったCDを封入したりと、版を重ねるごとに進化していったことがうかがえます。テーマ曲は加藤さんがギターを、加藤さんの妻の貴美子さんが歌を担当。2017年文芸社から出版されるにあたっては、物語の再編集、イラストの書き下ろしと、さらなる進化を遂げました。「加藤くん、貴美ちゃん、製本を手伝ってくれたボランティア仲間をはじめ、応援してくれた皆さんのおかげ。僕一人では何もできなかった」と後藤さんは笑みを見せます。

ブルースカフェでの絵本の製本作業。9000部を手づくりしたといいますから、驚きです

絵本をきっかけに講演の依頼も舞い込むようになり、小学校や中学校の子どもたちから届いた感想文はこれまでに6000通以上。第2作の構想もあるものの、「それよりも『だいじょうぶ だいじょうぶ みんな だいすきだから』に込めたメッセージを伝え、今後も人を笑顔にする活動を続けていきたい」と話します。

物語の終盤、目の見えない女の子が、孤独感に苦しむ男の子に語りかけます。

「きみも いまから たのしいことうれしいことだけ かんがえてごらん」

「ほら やさしいきもちになれるでしょ」

「そしたら じぶんに ありがとうっておもえるよ」

「そうたのしくなると」

「つまらないこともわすれちゃうよ」

新型コロナウイルスによる不安な情報が日々飛び交ういま。物事を前向きにとらえる登場人物たちの姿からは、心を健康に保つためのヒントが得られるかもしれません。

「読み手によって感じ方は異なる。こうあるべき、こうすべきと強制するつもりはなく、読者の心の中に少しでも何か残せればうれしい」と後藤さん。どんな感想を持つかは、もちろん自由。みなさんはこの絵本を手に、何を想うでしょう。

絵本と、絵本のテーマ曲が入ったCDをセットにして3人にプレゼント！詳しくは64ページをチェック

絵本のメッセージを広めたいと、後藤さんが2015年から取り組んでいるちぎり絵。昨年東京国立新美術館で行われた「第6回躍動する現代作家展」では、躍動する現代作家賞を受賞しています

加藤さん夫婦が経営するブルースカフェ。バリアフリー設計で、車いすやベビーカーが利用しやすいよう、机と机の間を広く設けてあります

information
池田町八幡2579-3 ☎0585-45-1950 bluescafe-web.com/

絵本のイラストを担当
加藤優一さんと、妻の貴美子さん

優一さんは妹に知的障がいがあり、在宅介護ヘルパーと、知的障がいのある子どもたちの自立に向けた指導員の経験があります

絵本の文章を担当
後藤政幸さん

1960年生まれ。「一本足のごっちゃん」を愛称として、絵本に託したメッセージを世界に広げようと活動しています

information
絵本に関する問い合わせはこちら
www.love7colors.com/

文芸社から発行された絵本。素朴なタッチの水彩イラストが目をひきます。元になった手づくり絵本は、ブルースカフェでも販売しています

絶賛販売中！

文／髙﨑千紗登　写真／D-studio　デザイン／chica